

### III 事業の概要

#### 平成30(2018)年度熊本県立美術館年間スケジュール

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
本館二階	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 特別展 永青文庫展示室 開設10周年記念 細川ガラシャ 8/4~9/24</li> <li>● 特別展 山本二三展 日本アーネーション美術の創造者 7/28~9/17</li> <li>● 特別展 熊本零士展 松本零士展 日本アニメ景の巨匠 10/27~12/24</li> <li>● 特別展 熊本零士展 松本零士展 日本アニメ景の巨匠 10/27~12/24</li> </ul>											
本館一階	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 特別展 熊本零士展 松本零士展 日本アニメ景の巨匠 10/27~12/24</li> <li>● 特別展 熊本零士展 松本零士展 日本アニメ景の巨匠 10/27~12/24</li> </ul>											
収蔵庫 燐素	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 特別展 熊本零士展 松本零士展 日本アニメ景の巨匠 10/27~12/24</li> <li>● 特別展 熊本零士展 松本零士展 日本アニメ景の巨匠 10/27~12/24</li> </ul>											
分館四階	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 特別展 熊本零士展 松本零士展 日本アニメ景の巨匠 10/27~12/24</li> <li>● 特別展 熊本零士展 松本零士展 日本アニメ景の巨匠 10/27~12/24</li> </ul>											
分館二階	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 特別展 熊本零士展 松本零士展 日本アニメ景の巨匠 10/27~12/24</li> <li>● 特別展 熊本零士展 松本零士展 日本アニメ景の巨匠 10/27~12/24</li> </ul>											
分館一階	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 特別展 熊本零士展 松本零士展 日本アニメ景の巨匠 10/27~12/24</li> <li>● 特別展 熊本零士展 松本零士展 日本アニメ景の巨匠 10/27~12/24</li> </ul>											
ギャラリー	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 特別展 熊本零士展 松本零士展 日本アニメ景の巨匠 10/27~12/24</li> <li>● 特別展 熊本零士展 松本零士展 日本アニメ景の巨匠 10/27~12/24</li> </ul>											
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 特別展 熊本零士展 松本零士展 日本アニメ景の巨匠 10/27~12/24</li> <li>● 特別展 熊本零士展 松本零士展 日本アニメ景の巨匠 10/27~12/24</li> </ul>											

# 第 I 期 細川コレクション

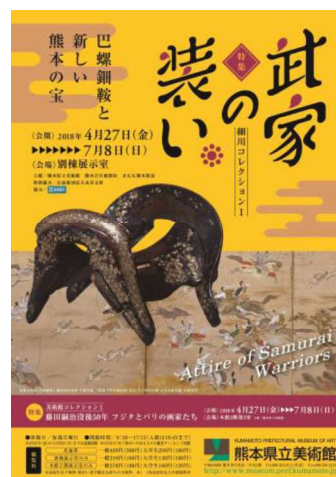
## 〈特集〉 武家の装い

ともえらでんくら

### — 巴 螺鈿鞍と新しい熊本の宝

## 〈常設〉 細川家の歴史と美

会 期	平成 30 年 4 月 27 日(金)~7 月 15 日(日)
開催日数	66 日間
会 場	別棟常設展示室、本館 2 階展示室(第 1 室)
主 催	熊本県立美術館、熊本日日新聞社、RKK 熊本放送
特別協力	公益財団法人永青文庫
協 力	肥後銀行
観 覧 料	共通券:一般 420(300)円 大学生 250(190)円 別棟:一般 210(160)円 大学生 130(100)円 本館 2 階:一般 270(190)円 大学生 160(120)円 高校生以下無料 ( )内は団体 20 名以上の料金
観覧者数	6,687 名(本館 2 階:4,013 名 別棟:2,674 名)
担 当 者	才藤あずさ



### 趣旨とその成果

鎌倉時代に制作された螺鈿鞍の名品で、国の重要文化財に指定されている《<sup>ともえらでんくら</sup>巴螺鈿鞍》が、当館に寄贈されたことを記念し、巴螺鈿鞍とともに武家の装いの世界を紹介する展覧会を開催した。《巴螺鈿鞍》は、薄い夜光貝を巴文形に切り透かして貼りつめた螺鈿鞍で、全国でも十数点しか確認されていない鎌倉時代の螺鈿鞍として大変貴重な作品である。

本展では、巴螺鈿鞍のほか、「蒙古襲来」における肥後の御家人・竹崎季長の奮戦を描いた《蒙古襲来絵詞(模本)》や、南北朝時代の大鎧を写した《白糸褙取大鎧》、桃山時代の蒔絵鞍などを展示し、中世から近世にかけての武家の装いの美をご覧いただいた。また、昨年度に収蔵された熊本の新しい宝である堅山南風《争魚》、伊藤若冲《鶏図》などの新収蔵品もあわせて紹介した。

また、常設では「細川家の歴史と美」を開催。幕末維新时期に活躍した細川家の当主である斉護、韶邦、護久所用の甲冑や書画などを展示した他、藩主夫人が用いた華やかな衣裳や化粧道具を展示した。

### 関連行事

- |  |   |
|--|---|
| ① 6 月 9 日(土)ミュージアムセミナー<br>演題:武家の装い<br>講師:主任学芸員 才藤あずさ<br>聴講者:44 名 | ② 6 月 9 日(土)ミュージアムセミナー<br>やってみよう染め物体験<br>参加者:39 名 |
|--|---|

# 第 I 期 美術館コレクション 〈特集〉 藤田嗣治没後 50 年 フジタとパリの画家たち 〈常設〉 熊本の美術

会 期	平成 30 年 4 月 27 日(金)~7 月 15 日(日)
開催日数	66 日間
会 場	本館 2 階展示室(第 2 室・3 室)
主 催	熊本県立美術館
観 覧 料	共通券:一般 420(300)円 大学生 250(190)円 別棟:一般 210(160)円 大学生 130(100)円 本館 2 階:一般 270(190)円 大学生 160(120)円 高校生以下無料 ( )内は団体 20 名以上の料金
観覧者数	4,013 人(本館 2 階のみ)
担 当 者	林田龍太(2 室)、岡田真梨子(3 室)

## 趣旨とその成果

2018 年は藤田嗣治(レオナール・フジタ)の没後 50 周年。当館のフジタ・コレクションを中心にエコール・ド・パリの画家や海老原喜之助らの名品など、フランスと日本の近代絵画の粋を熊本との関わりも交えて紹介した。

また、常設では「熊本の美術」を開催。別棟展示室における新収蔵品《争魚》の展示に合わせ、《霜月頃》をはじめとする堅山南風作品を展示。さらに南風の師・高橋廣湖や、兄弟子・山中神風の作品を通して、熊本の近代日本画の系譜を紹介した。

## 関連行事

- ① 5 月 26 日(土)ミュージアムセミナー  
演題:フジタとパリの画家たち  
講師:学芸員 岡田真梨子  
聴講者:42 名
- ② 5 月 27 日(日)子ども美術館  
「レオナール・フジタってどんな人?」  
参加者:9 名

# メルヘン 藤城清治の世界 光と影の楽園展 2018

会 期	平成 30 年 4 月 27 日(金)～6 月 2 日(土)
開催日数	34 日間
会 場	本館 1 階展示室
主 催	TKU テレビ熊本、熊本県立美術館(名義共催)
後 援	熊本県、熊本市、熊本県教育委員会、 熊本市教育委員会、熊本日日新聞社、 NHK 熊本放送局
協 力	藤城清治事務所、一般財団法人藤城清治美術館 那須高原、HORIPRO、株式会社アートプリントジャ パン、株式会社アートカフェ
観 覧 料	一般:1,400(1,200)円 高・大学生 1,200(1,000)円 小・中学生 700(500)円 未就学児無料 ( )内は前売・団体 20 名以上の料金
観覧者数	27,012 名
担 当 者	石丸美穂子、有木芳隆



## 趣旨とその成果

日本を代表する影絵作家・藤城清治氏の、独自の芸術世界を紹介する展覧会。世界でも類を見ない影絵の手法により、ファンタジーや童話の世界を描き出してきた藤城氏の作品が、影絵の劇場をイメージした工夫を凝らした展示構成により、物語性豊かに紹介された。藤城氏は 94 歳を超えた今なお、ますます意欲的な制作活動を続けておられ、少女や動物、こびとなどがにぎやかに躍動する画面には、生きとしいけるものすべてへの愛があふれている。本展では、震災後の熊本城などをモチーフに復興への祈りを込めた作品も展示された。生きる喜びや祈りに彩られた光と影の総合芸術は、多くの来館者に好評を得た。

## 関連行事

4 月 28 日(土)、5 月 4 日(金・祝)、5 月 19 日(土)、5 月 20 日(日)、6 月 2 日(土)

藤城清治サイン会

参加者:各回 200 名程度

# 第Ⅱ期 細川コレクション

## 〈特集〉 親子でみる美術展

### 二の丸小さきもの倶楽部

会 期	平成 30 年 7 月 28 日(土)～9 月 24 日(月・祝)
開催日数	53 日間
会 場	別棟常設展示室
主 催	熊本県立美術館、熊本日日新聞社、RKK 熊本放送
特別協力	公益財団法人永青文庫
協 力	肥後銀行
観 覧 料	本館 2 階との共通券:一般 1,100 円 学生 800 円 別棟:一般 210(160)円 大学生 130(100)円 高校生以下無料 ( )内は団体 20 名以上の料金

観覧者数	7,275 名(別棟のみ)
担 当 者	石丸美穂子、才藤あずさ



#### 趣旨とその成果

「親子でみる美術展」は、子どもにわかりやすい展示構成で、美術品や歴史資料に、そして美術館そのものに親しんでもらうことを目的とした展覧会である。平成 7 年から 21 年にかけて企画され、事業編成等に伴いしばらく休止したが、開館 40 周年を迎えるにあたり、世代をこえて、親子で美術や美術館に親しむ機会をより一層設けるため、平成 27 年度から再開した。

第 3 弾となる本展では、お殿様の武器武具、お姫様の雛飾り、その他様々な道具から「小さなもの」に着目し紹介。クイズや刀装具の紹介パネルを設置するなど、楽しめる展示構成を工夫することにより、当時の人々の細部に至るまでのこだわり、作品そのものの美しさ、愛らしさ、かっこよさといった魅力を、幅広い年代の方に感じていただける機会となった。

#### 関連行事

7 月 29 日(日)子ども美術館

「バックヤード探検～準備中の展示室ものぞいちゃおう～」

参加者:35 名

# 山本二三展

## 日本アニメーション美術の創造者

会 期	平成 30 年 7 月 28 日(土)~9 月 17 日(月・祝)
開催日数	47 日間
会 場	本館 1 階展示室
主 催	熊本県立美術館、熊本日日新聞社
後 援	熊本県文化協会、熊本県美術家連盟、熊本県市町村教育委員会連絡協議会、熊本県図画工作・美術教育研究会、熊本県高等学校教育研究会美術・工芸部会、熊本県高等学校文化連盟、熊本県博物館連絡協議会 RKK、TKU、KKT、KAB、エフエム熊本、FM791
協 力	絵映舎
企画協力	神戸新聞社
観 覧 料	一般:1,000(800)円 大学生 700(500)円 小中校生 300(200)円 未就学児無料 ( )内は前売・団体 20 名以上の料金
観覧者数	21,573 名
担 当 者	有木芳隆、岡田真梨子



### 趣旨とその成果

本展覧会は、「日本のアニメーション美術の創始者」と称される山本二三氏のアニメーション背景画などを、初めて熊本で公開するものであった。山本二三氏は、1953(昭和 28)年、五島列島の福江島(現 長崎県五島市)の生まれ。同氏は、「未来少年コナン」(1978 年)、「天空の城ラピュタ」(1986 年)、「火垂るの墓」(1988 年)、「もののけ姫」(1997 年)、「時をかける少女」(2006 年)など数々の名作アニメーションで美術監督をつとめて高い評価をうけ、現在もなお精力的に活躍している。

背景画等のアニメーション美術は、アニメーション全体のなかで重要な部分を担うものであるが、作品のなかで調和することを求められ、キャラクターを背後で支える存在である。本展は、あえてキャラクターを入れないことで、背景美術の果たす役割に光をあてた。本展では、アニメーション作品に用いられた背景画、準備段階で描かれるイメージボードなど 220 点以上を、作者みずからの選択によって初期から最近作まで展示した。入念な取材と構想、精密な描写によって表現された世界を間近で体験する機会となった。

### 関連行事

- ① 7 月 28 日(土)トークショー&サイン会  
講 師:山本二三氏  
参加者:130 人(事前申込)

② 7月29日(日)制作デモンストレーション

講師:山本二三氏

参加者:70人(事前申込)

③ 8月23日(木)二三の日ミニコンサート

出演:KOMSカルテット

参加者:130人



# 永青文庫展示室開設 10 周年記念特別展 細川ガラシャ

会 期	平成 30 年 8 月 4 日(土)~9 月 24 日(月・祝)
開催日数	47 日間
会 場	本館 2 階展示室
主 催	熊本県立美術館、公益財団法人永青文庫、熊本大学 永青文庫研究センター、熊本日日新聞社、RKK 熊本放送
後 援	熊本県文化協会、熊本県美術家連盟、熊本県市町村教育 委員会連絡協議会、熊本県図画工作・美術教育研究会、 熊本県高等学校教育研究会美術・工芸部会、熊本県高等 学校文化連盟、熊本県博物館連絡協議会、 NHK 熊本放送局、エフエム熊本、FM791
特別協賛	肥後銀行
協 賛	お菓子の香梅、金剛株式会社
観 覧 料	別棟展示室との共通券:一般 1,100 円 学生 800 円 本館 2 階:一般:1,000(800)円 大学生 700(500)円 高校生以下無料 ( )内は前売・団体 20 名以上の料金

観覧者数	21,660 名
担 当 者	山田貴司、宮川聖子



## 趣旨とその成果

平成 20 年 4 月に開設された「細川コレクション永青文庫展示室」の 10 周年を記念し、開催した特別展。近世大名としてのいしずえを築いた細川忠興に嫁いだ明智光秀の娘、細川ガラシャにスポットをあてた。ガラシャは、本能寺の変により不遇の日々を送ったものの、キリスト教へ改宗して熱心に信仰し、関ヶ原合戦の直前に悲劇的な最期を迎えた女性である。ただ、どういった生涯を送ったのか、ゆかりの品がどれほど残っているのかなどは、じつは意外に知られていなかった。また、他の大名夫人と比較すると、どうしてこれほど高い知名度を有しているのか、という疑問も残されていた。本展は、こういった「謎」に挑むものでもあった。

会場には、40 ヶ所を超える所蔵者からお借りしたゆかりの品々や、彼女を題材とした物語、絵画作品を一室に展示した。100 点を超える展示作品の展覧を通じて、ガラシャが生き残った戦国乱世の様相と華やかな桃山文化に触れつつ、彼女が送った激動の生涯に思いを馳せる機会を創出するとともに、その歴史的イメージが時代を追うごとに変遷していく様子もあわせてご覧いただいた。

会場づくりや広報にあたっては、これまでにない取り組みも実施した。ひとつは、人気の「刀剣乱舞オンライン」とのコラボレーション。忠興の愛刀《歌仙兼定》のキャラクターパネルを会場外に設置するとともに、会場内の《歌仙兼定》についても、撮影と SNS への画像掲載を許可した。また、会場での案内標記の充実やグッズ販促のためにガラシャのイラストを制作し、会場外には撮影用のパネル(ポップ)も設置した。



このような展覧会の意図、構成、会場づくり、広報等の効果もあつてか、会期中には、予想以上の観覧者にご来館いただけた。観覧者アンケートや SNS、会場でのやり取りの中で確認した限りだが、展示内容にも御満足いただけたようだ。

#### 関連行事

① 6月23日(土)ミュージアムセミナー

演題:ガラシャイメージの形成と展開

講師:学芸課参事 山田貴司

聴講者:87名

② 7月29日(日)子ども美術館

「バックヤード探検～準備中の展示室ものぞいちゃおう～」

参加者:35名

③ 8月11日(土)子ども美術館

「ガラシャとロザリオ～ロザリオづくり体験～」

講師:内坪井修道院 大久保須美子氏

参加者:91名

④ 8月19日(日)熊本オペラ芸術協会 細川ガラシャ展記念コンサート

音楽監督・指揮:平成音楽大学理事長・学長 出田敬三氏

出演:熊本オペラ芸術協会、平成音楽大学 女声合唱団「平成カンマーコール」

参加者:600人以上

⑤ 8月25日(土)特別講演会

演題:イエズス会史料からみた細川ガラシャ

講師:青山学院大学准教授 安廷苑氏

聴講者:176名

⑥ 9月8日(土)特別講演会

演題:新・明智光秀論

講師:熊本大学永青文庫研究センター教授 稲葉継陽氏

聴講者:351名

# 細川護熙 美の世界 薬師寺奉納障壁画展

会期	平成30年10月6日(土)～11月18日(日)
開催日数	38日間
会場	別棟常設展示室
主催	熊本日日新聞社
共催	熊本県立美術館、公益財団法人永青文庫
後援	熊本県文化協会
協力	一般社団法人 九曜アートプロジェクト
協賛	鶴屋百貨店、出水神社
観覧料	一般 700(500)円 大学生 500(400)円 高校生以下無料( )内は前売・団体 20名以上の料金
観覧者数	3,451名(別棟のみ)
担当者	有木芳隆



## 趣旨とその成果

薬師寺は奈良の地に<sup>いらか</sup>甍を連ねる法相宗大本山で、天武天皇が皇后(後の持統天皇)の病氣平癒を祈って西暦680年に発願した白鳳時代を代表する寺院である。1300年以上の歴史をもつ寺内には、天平2年(730)に建立された国宝東塔や国宝銅造薬師三尊像など、白鳳・天平時代を代表する国宝が数多く残されている。

2012年秋、公益財団法人永青文庫理事長・細川護熙氏に「薬師寺慈恩殿」の障壁画制作という大プロジェクトが依頼された。薬師寺法相宗の祖は唐時代の名僧玄奘三蔵で、境内にはその遺徳をたたえた玄奘三蔵院伽藍<sup>がらん</sup>があり、ここには洋画家平山郁夫が精魂を込めた大作「大唐西域壁画」が安置されている。この三蔵院伽藍に寄り添うように建っているのが玄奘の高弟・慈恩大師の「慈恩殿」であり、細川護熙氏が障壁画制作を依頼された場所の重要性がよくわかる。

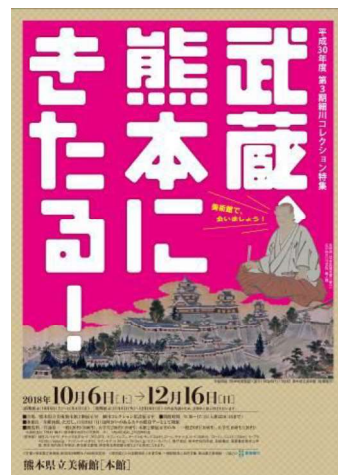
同氏が約7年をかけて描き上げる全66面(114枚)の障壁画は、2019年に入ると設置工事が始まる予定。2019年9月に予定されている奉納式典を前に、この壮大なプロジェクトの一部となる北面14面(22枚)を当館の細川コレクション常設展示室にてご覧いただけることとなった。併せて本展では、同氏の陶芸作品のなかから精選した茶碗と、心和む信楽童子像を合わせた4作品(全て初公開)を展示した。本展は、造形作家細川護熙氏の芸術世界を観覧いただける絶好の機会になった。

# 第Ⅲ期 細川コレクション

## 〈特集〉 武蔵、熊本にきたる！

## 〈常設〉 細川家ゆかりの近世絵画

会 期	平成 30 年 10 月 6 日(土)～12 月 16 日(日) ※別棟は 11 月 27 日(火)～12 月 16 日(日)
開催日数	63 日間 ※別棟は 18 日間
会 場	別棟常設展示室、本館 2 階展示室
主 催	熊本県立美術館、熊本日新聞社、RKK 熊本放送
特別協力	公益財団法人永青文庫、岡山県立美術館
協 力	肥後銀行
観 覧 料	共通券:一般 420(300)円 大学生 250(190)円 別棟:一般 210(160)円 大学生 130(100)円 本館 2 階:一般 270(190)円 大学生 160(120)円 高校生以下無料 ( )内は団体 20 名以上の料金
観覧者数	5,838 名(本館 2 階:5,251 名 別棟:587 名)
担 当 者	山田貴司(本館 2 階)、宮川聖子(別棟)



### 趣旨とその成果

剣豪として有名な宮本武蔵は、寛永 17 年(1640)に熊本を訪れ、晩年をここで過ごした。この間には、剣術修行や指南のみならず、書画にもいそしんだとされる。本展では、永青文庫所蔵の武蔵関連作品に加え、松井文庫に伝来した作品も一堂に展示し、書画にもたしなんだ武蔵の晩年、そして当時の熊本にスポットをあてた。また、岡山県立美術館の武蔵コレクションも特別展示。選りすぐりの武蔵作品が熊本に勢ぞろいする、またとない機会となった。

また、常設では「細川家ゆかりの近世絵画」を開催。細川コレクションの中から、宮本武蔵とほぼ同時代に活躍した御用絵師・矢野三郎兵衛の作品を中心に、江戸時代に活躍した細川家の御用絵師の作品を展示した。

### 関連行事

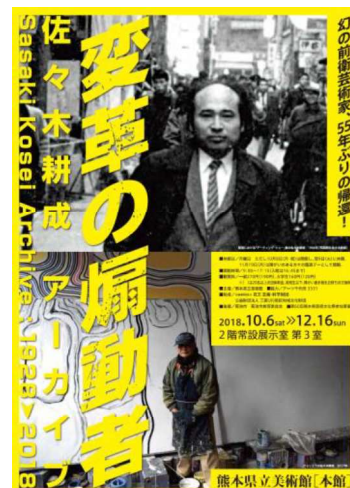
12 月 9 日(日) 子ども美術館  
「展示室スタンプラリー」  
参加者:9 名

# 第Ⅲ期 美術館コレクション

## 〈企画〉 変革の煽動者 佐々木耕成アーカイブ

## 〈常設〉 熊本の仏教美術と歴史

会 期	平成 30 年 10 月 6 日(土)～12 月 16 日(日)
開催日数	66 日間
会 場	本館 2 階展示室(第 2・3 室)
主 催	熊本県立美術館
特別協力	公益財団法人永青文庫
協 力	肥後銀行
観 覧 料	共通券:一般 420(300)円 大学生 250(190)円 別棟:一般 210(160)円 大学生 130(100)円 本館 2 階:一般 270(190)円 大学生 160(120)円 高校生以下無料 ( )内は団体 20 名以上の料金
観覧者数	5,251 名(本館 2 階のみ)
担 当 者	林田龍太(本館 2 階 3 室)、萬納恵介(本館 2 階 2 室)



### 趣旨とその成果

1960 年代、前衛美術グループ〈ジャックの会〉の中心人物として活動し、昨年 4 月に群馬で逝去した画家・佐々木耕成。本展はこの知られざる熊本出身画家の軌跡をたどる展覧会として開催した。抽象表現主義的絵画から画業をスタートさせ、〈ジャックの会〉では「作品を売る」企画や街頭でのパフォーマンスなどを試みた佐々木だが、当時の作品は本人の手によって処分されていた。調査の結果見出されたのは、ごく少数の初期作品と当時の記録写真や資料、そして晩年に制作された大型の絵画作品群であった。

これまで当館では、1960 年代の美術を系統立てて紹介したことはなかった。そのため本展では、60 年代佐々木の活動を重点的に紹介すべく、展示室には当時の記録写真パネルや資料類を展示した。一方、晩年の絵画の大半はロビーに展示した。これは、佐々木が〈ジャックの会〉当時の活動を「企画そのものがアートになると思っていた」とする一方、晩年の絵画については「これらは美術ではない。自分が感じた自然の在り方を自己満足のために描いているだけ」と述べていたことにちなむ。

ただし、この展示構成に関しては「まるで資料館だ」といった否定的な意見をいくつか頂いた。しかしその反面、「熊本県美でこんな展覧会を見ることができるとは思わなかった。今後も期待しています」との嬉しい言葉を頂くこともあった。また会期末には、同分野を研究する学芸員や研究者らの来館が多数あった。なお本展図録が、美術館連絡協議会が主催する「2018 年美連協大賞」において、優秀論文賞(自主展部門)を受賞したことを付記しておきたい。

常設「熊本の仏教美術と歴史」では、美術館寄託の仏教美術作品のほとんどを展示することで、熊本の仏教美術入門と位置づけ、奈良時代から江戸時代までの多岐にわたる名品を紹介した。

例えば《木造十一面観音菩薩立像》(熊本市報恩寺所蔵)は、2 度に渡って宋(中国)に渡り、緑川の架橋など熊本に大きな足跡を残した曹洞宗の高僧、寒巖義尹が関与して制作された仏像。像内からは寒巖義尹が納入した十一面観音を描いた仏画が見つかった。また、《木造男神坐像》は、上益城郡の六嘉神社に伝わった神像群の 1 体で、閻魔を思わせる冠と威厳に満ちた顔つきが特徴的な神像。

会場監視員から聞いたところによれば、来館者が観覧に長時間をかけていたとの話もあり、常設展ながら、多くの方に好評をいただけたようである。

#### 関連行事

① 10 月 20 日(土)ミュージアムセミナー

演 題:前衛美術とアニメーション

講 師:学芸課参事 林田龍太

聴講者:29 名

② 10 月 21 日(日)子ども美術館

「気になる素材で作ってみよう!」

参加者:38 名

③ 11 月 24 日(土)ミュージアムセミナー

演 題:熊本中世の仏像

講 師:学芸員 萬納恵介

参加者:33 名